

2022 年度

研究指導教員紹介

常磐大学大学院

人間科学研究科

修士課程・博士課程（後期）

— 目 次 —

研究指導教員一覧表	1
研究指導教員略歴	2

このファイルは、2022 年度に在籍している本学大学院の研究指導教員を紹介するものです。
出願に当たっては、希望する研究指導教員と研究テーマや研究計画等について予め相談し、出願の了解を得た上で、入学志願票の「希望する研究指導教員署名欄」に当該教員の署名をもらってください。
相談の方法（日程等の調整）については、本学アドミッションセンターまでお問い合わせください。

1 研究指導教員一覧表

各課程の研究指導教員は以下のとおりです。

(50音順)

氏 名	博士課程（後期）	修士課程
砂 金 祐 年	第Ⅱ領域	第Ⅱ領域
申 紅 仙	—	第Ⅰ領域
千 手 正 治	第Ⅱ領域	第Ⅱ領域
寺 村 堅 志	—	第Ⅲ領域
中 原 史 生	第Ⅰ領域	第Ⅰ領域
西 澤 弘 行	—	第Ⅱ領域
長谷川 幸 一	第Ⅱ領域	第Ⅱ領域
馬 場 久美子	—	第Ⅲ領域
文 堂 弘 之	第Ⅱ領域	第Ⅱ領域
水 嶋 陽 子	第Ⅱ領域	第Ⅱ領域

2 研究指導教員略歴

氏名	イサゴ サチトシ 砂金 祐年	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科博士課程（後期）（Ⅱ） 人間科学研究科修士課程（Ⅱ）
略歴	<p>最終学歴：明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程修了 学 位：博士（政治学） 所属学会：日本行政学会，日本公共政策学会（理事），日本地域政策学会，日本地方自治学会，日本危機管理防災学会（監事），日本協働政策学会（理事） 社会活動：水戸市使用料等審議会会長，日立市新しいコミュニティのあり方検討委員会委員長，笠間市行政改革推進委員会委員長，那珂市総合開発審議会会長，小美玉市男女共同参画審議会会長ほか</p> <p>自治体間の政策格差がどのような要因で生じるのかについて，量的手法（統計分析など）と質的手法（事例研究など）を組み合わせて研究をしています。特に地域コミュニティの絆を数値化した概念である「ソーシャル・キャピタル」に注目し，それが犯罪率や出生率といった政策出力とどのような関連があるのかについて分析しています。近年は防災分野に関する調査や学会発表，自治体や市民団体との協働などを通じて，地域防災力向上のための取り組みを行っています。</p>		
担当科目	<p>【博士課程（後期）】 博士論文合同特殊演習Ⅰ，博士論文合同特殊演習Ⅱ，博士論文研究ⅡA，博士論文研究ⅡB，博士論文研究ⅡC，博士論文研究ⅡD，人間と社会・コミュニケーション特殊研究，人間と社会・コミュニケーション特殊演習</p> <p>【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，地域振興特論，地域振興演習</p>		
氏名	シン ホンゾン 申 紅仙	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科修士課程（Ⅰ）
略歴	<p>所属学会：産業・組織心理学会（監事），人間工学会（関東支部委員），人類働態学会（理事），応用心理学会，日本心理学会，日本ヒューマン・インターフェース学会 社会活動：2009年度～2011年度 JR総合技術研究所リサーチアドバイザー（JR総合技術研究所），2011年8月～2012年3月「地震・津波対策検討部会」委員（茨城県防災会議地域防災計画改定委員会），2011年4月～2016年3月 茨城県再可能エネルギー等導入促進事業評価委員（茨城県生活環境部環境政策課地球温暖化対策室），2013年4月～現在 中央労働災害防止協会 安全行動調査アドバイザー（中央労働災害防止協会（特別民間法人（厚生労働省関連）），2015年6月23日～2018年3月 茨城県国民保護協議会委員（茨城県生活環境部防災・危機管理局 防災・危機管理課（危機管理担当）</p>		
専門	産業・組織心理学，人間工学，安全心理学		
担当科目	<p>【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，学習心理学特論，学習心理学演習，行動適応学特論，産業・労働社会学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）</p>		
氏名	センズ マサハル 千手 正治	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科博士課程（後期）（Ⅱ） 人間科学研究科修士課程（Ⅱ）
略歴	<p>中央大学法学研究科博士後期課程単位修得満期退学。修士（法学）。中央大学通信教育部インストラクター，中央大学リサーチアシスタント，常磐大学専任講師，同准教授を経て，2020年4月より常磐大学教授。日本刑法学会，日本被害者学会，日本の犯罪と非行に関する全国協議会（JCCD），日本ニュージーランド学会会員。</p> <p>大学院生の頃より，刑事政策を専攻。主として犯罪被害者と刑事司法及び犯罪者処遇についての研究に従事してきた。これまで助成を受けた研究として，「被害者支援と修復的司法」（分担：常磐大学課題研究），「刑務所における官民の連携に関する一考察：保安作用に係る事項を中心として」（代表：常磐大学課題研究），「就労支援の観点に基づく我が国の社会貢献活動発展の諸条件に関する実証的研究」（代表：科学研究費若手B），「対象被害者拡大の観点に基づく我が国のワンストップ支援発展の条件に関する実証的研究」（代表：科学研究費基盤C）がある。</p>		
担当科目	<p>【博士課程（後期）】 博士論文合同特殊演習Ⅰ，博士論文合同特殊演習Ⅱ，博士論文研究ⅡA，博士論文研究ⅡB，博士論文研究ⅡC，博士論文研究ⅡD，人間と社会・コミュニケーション特殊研究，人間と社会・コミュニケーション特殊演習</p> <p>【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，被害者学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開），被害者学演習</p>		

氏名	テラムラ ケンジ 寺村 堅志	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科修士課程（Ⅲ）
略歴	筑波大学大学院教育研究科修士課程修了。修士（カウンセリング）。臨床心理士，公認心理師。 法務省法務技官（心理職）として少年鑑別所，刑事施設の心理技官，国連アジア極東犯罪防止研修所教官，法務総合研究所主任研究官等を歴任後，2019年より本学勤務。日本犯罪心理学会，日本更生保護学会，日本トラウマティックストレス学会会員。日本犯罪心理学会編集委員（2009年－現在），日本犯罪心理学会常任理事（2018年－2021年），法務省矯正研修所効果検証センターアドバイザー（2019年－現在）。SIB方式による非行少年への学習支援実施等業務YNPSアセスメント指導等外部専門家（2021年－現在）		
	専門は，非行・犯罪臨床心理学。臨床活動では，矯正施設において非行のある少年や犯罪をした者の心理アセスメントに従事してきたほか，司法・犯罪領域の実務関連課題の調査・研究を実施してきた（「アジア地域における薬物乱用の動向と効果的な薬物乱用者処遇対策に関する調査研究」，「諸外国における位置情報確認制度に関する研究」，「無差別殺傷事犯に関する研究」（いずれも法務総合研究所研究部報告）など）。再犯・再非行防止推進のためのリスク・ニーズアセスメントを基軸とした実証的根拠に基づく効果的処遇や，立ち直り支援に有益な司法福祉の支援の在り方等についての検討を通じ，「誰一人取り残すことのない」共生社会を推進させたく考えている。		
担当科目	【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，被害者学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開），臨床心理学特論Ⅰ，臨床心理学特論Ⅱ，臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践），臨床心理面接特論Ⅱ，臨床心理基礎実習，臨床心理関連行政論特論，ケース・カンファレンス特論Ⅰ，ケース・カンファレンス特論Ⅱ，ケース・マネジメント実習Ⅰ（心理実践実習），ケース・マネジメント実習Ⅱ（心理実践実習）		
氏名	ナカハラ フミオ 中原 史生	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科博士課程（後期）（Ⅰ） 人間科学研究科修士課程（Ⅰ）
略歴	東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士（農学）。日本動物行動学会，日本動物心理学会，日本哺乳類学会，日本生態学会，日本水産学会，ヒトと動物の関係学会，The Society for Marine Mammalogy（海棲哺乳類学会）会員		
	専門は動物行動学，比較認知科学。特にイルカ類の社会行動，社会的認知，社会的知性について研究を行っている。日本の鯨類学の先覚者である故小川鼎三先生は，その著書の中で「クジラ山からヒト山をみる」ことがヒト理解に有効であると述べている。クジラ山に登ってその頂からヒト山を眺めることによって，ヒト山に登っているだけでは気づかない別の側面からヒトを知ることができるというのだ。私自身はイルカそのものに興味があつて研究をはじめたが，近年，ヒトを含む霊長類とイルカ類の知性の比較を行うプロジェクトに参加し，ヒトの心がどの様に進化してきたのかを探ろうとしている。		
担当科目	【博士課程（後期）】 博士論文合同特殊演習Ⅰ，博士論文合同特殊演習Ⅱ，博士論文研究ⅠA，博士論文研究ⅠB，博士論文研究ⅠC，博士論文研究ⅠD，人間の発達と適応特殊研究，人間の発達と適応特殊演習 【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，認知科学特論，認知科学演習，生命科学特論，生命科学演習，生命科学特別演習		
氏名	ニシザワ ヒロユキ 西澤 弘行	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科修士課程（Ⅱ）
略歴	東京都立大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程単位取得満期退学。文学修士（東京外国語大学・東京都立大学）。エスノメソドロジー・会話分析研究会，社会言語科学会，日本コミュニケーション障害学会，日本発達心理学会，JSLS言語科学会，日本手話学会，基礎デザイン学会，日本認知科学会。		
	「対面状況でのコミュニケーション」＝「現場での生（ナマ）の伝え合い・やりとり」＝「相互行為」＝「会話」とは，話しことば，身体や行動面での人物特徴，表情や視線などを含む体の動き，場，生理的反応，空間と時間，人物の社会的背景といった様々なものが一つに溶け合ったものである。この「会話」の仕組みについて，ブラーク学派の言語学とアメリカ構造主義記述言語学，文化心理学，発達科学，認知科学，言語人類学（認識人類学）の知見と，エスノメソドロジー・会話分析（相互行為分析）および相互行為言語学の立場から，とりわけ後期ヴィトゲンシュタインの日常言語学派の思想に方向づけられた立場から探究している。マイノリティの言語と文化，言語権，手話言語学，言語帝国主義，失語症，視覚障害者の歩行訓練，言語・コミュニケーション発達，日本語教育などが具体的な研究のトピックである。		
担当科目	【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，社会学特論，コミュニケーション論特論，コミュニケーション論演習		

氏名	ハセガワ コウイチ 長谷川 幸一	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科博士課程（後期）（Ⅱ） 人間科学研究科修士課程（Ⅱ）
略歴	慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程満期退学。社会学修士。日本社会学会，組織学会		
	<p>専門は，組織社会学であるが，近年は人間科学の歴史的形成過程についても研究を進めている。組織社会学では特に，公式組織と非公式組織の関係に注目し，非公式組織が公式組織に与える影響，またその逆の関係について，役割，権力，と言った概念を中心に研究を展開している。他方，人間科学の歴史については，未だにその名称の意味が多義的である人間科学の起源を探る作業を通して，何故，人間科学が多義的な意味を持つようになったのか，今後，人間科学は，どのような科学として確立されるべきなのか，といった点について考察を展開している。</p>		
担当科目	<p>【博士課程（後期）】 博士論文合同特殊演習Ⅰ，博士論文合同特殊演習Ⅱ，博士論文研究ⅡA，博士論文研究ⅡB，博士論文研究ⅡC，博士論文研究ⅡD，人間と社会・コミュニケーション特殊研究，人間と社会・コミュニケーション特殊演習</p> <p>【修士課程】 人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，社会学特論，家族社会学演習，産業・労働社会学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開），産業・労働社会学演習，産業・労働社会学特別演習</p>		
氏名	ババ クミコ 馬場 久美子	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科修士課程（Ⅲ）
略歴	筑波大学大学院博士課程心理学研究科中途退学。修士（心理学）。臨床心理士，公認心理師。日本心理学会，日本心理臨床学会，日本ロールシャッハ学会，日本家族心理学会，日本家族研究・家族療法学会，日本精神衛生学会，全国学生相談研究会議員，茨城県公認心理師協会役員。		
	<p>専門は，臨床心理学，異常心理学，家族心理学。臨床活動のフィールドは，主に病院（精神科・小児科）で，個人ならびに家族面接や心理検査に従事してきた。問題や症状を呈する本人だけでなく，その身近な人々（特に家族）も含め，より良い将来を創造していく一助となるような研究を積み重ねていきたいと考えている。これまで助成を受けた研究として，「視線によるロールシャッハ刺激の評価特性と投影結果について」（常磐大学課題研究：共同・代表），「ロールシャッハ情緒指標との関連からみた「情緒的巻き込まれ」体験について」（常磐大学課題研究：個人），「パーソナリティ特徴と被養育体験からみた抑うつ心の心理的特質—予備的研究—」（筑波大学動的脳機能とこころのアメニティ特別プロジェクト研究組織：共同・分担）がある。いかに有効な手立てでも人によって無効なばかりか有害なこともあるため，援助活動早期におけるアセスメントを重視している。最近では企業などからの依頼でストレスマネジメントの講習を担当する事が増え，ストレス関連の研究を進めている。</p>		
担当科目	<p>【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，臨床心理査定特別演習，臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習），臨床心理実習Ⅱ，臨床家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践），投映法特論，ケース・カンファレンス特論Ⅰ，ケース・カンファレンス特論Ⅱ，ケース・マネジメント実習Ⅰ（心理実践実習），ケース・マネジメント実習Ⅱ（心理実践実習）</p>		
氏名	ブドウ ヒロユキ 文堂 弘之	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科博士課程（後期）（Ⅱ） 人間科学研究科修士課程（Ⅱ）
略歴	<p>最終学歴：明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 学 位：博士（経営学） 所属学会：日本経営財務研究学会，証券経済学会，日本財務管理学会，日本マネジメント学会，日本経営学会日本経営分析学会，国際戦略経営研究学会 社会活動：茨城県労働局公共調達監視委員会委員，登記簿等の公開に関する事務（乙号事務）の民間競争入札に係る水戸地方務局委員会委員，関東財務局財務行政モニター，日立総合技術研修所講師，茨城活性化サロン有識者，水戸市水道事業及び下水道事業審議会委員，茨城県地方最低賃金市議会茨城県鉄鋼業最低賃金専門部会委員</p>		
	<p>財務管理論およびファイナンスを専門としています。研究テーマは，M&A (Merger & Acquisition) の財務的分析です。近年は，買収プレミアムの決定要因の実証分析をテーマとしており，科学研究費事業では，「買収プレミアムの決定要因に関する実証分析—財務および所有構造からのアプローチ—」（課題番号：20730258. 2008～2009年度. 若手研究(B). 研究代表者），「真の買収プレミアムの測定と決定要因—本源価値およびモメンタムからのアプローチ—」（課題番号：23530442. 2011～2014年度. 基盤研究(C). 研究代表者），「日本型買収プライシングモデルの構築—目的分類による買収プレミアムの標準モデル開発—」（課題番号：16K03877. 2016～2021年度. 基盤研究(C). 研究代表者）を行っています。</p>		
担当科目	<p>【博士課程（後期）】 博士論文合同特殊演習Ⅰ，博士論文合同特殊演習Ⅱ，博士論文研究ⅡA，博士論文研究ⅡB，博士論文研究ⅡC，博士論文研究ⅡD，人間と社会・コミュニケーション特殊研究，人間と社会・コミュニケーション特殊演習</p> <p>【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，産業・労働社会学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開），産業・労働社会学演習，産業・労働社会学特別演習</p>		

氏名	ミズシマ ヨウコ 水嶋 陽子	研究指導担当課程（領域）	人間科学研究科博士課程（後期）（Ⅱ） 人間科学研究科修士課程（Ⅱ）
略歴	<p>大阪大学人間科学研究科後期課程修了，博士（人間科学） 日本社会学会，日本家族社会学会，社会老年科学会，家族問題研究会 水戸市男女平等参画推進委員会委員，水戸市青少年問題協議会委員，茨城地方労働審議会委員ほか。</p>		
	<p>専門は，家族社会学，社会老年学，ライフコース論。標準的なライフコースを成立させてきた社会経済的基盤が揺らぐ時代に，家族や高齢者のかかえる問題を当事者の観点から理解し，社会に発信する必要がますます高まっている，という問題意識から研究を進めている。特に近年は，高齢者の生活を支えるものとして，地域の福祉活動や家族の伝統的側面がどのように活用されているのかに着目している。それを通して，現代日本において我々が「古い」と向き合うに当たっての課題と可能性はどこにあるのか，を考えている。</p>		
担当科目	<p>【博士課程（後期）】 博士論文合同特殊演習Ⅰ，博士論文合同特殊演習Ⅱ，博士論文研究ⅡA，博士論文研究ⅡB，博士論文研究ⅡC，博士論文研究ⅡD，人間と社会・コミュニケーション特殊研究，人間と社会・コミュニケーション特殊演習 【修士課程】 人間科学の方法論研究，人間科学合同演習，人間科学合同特別演習，修士論文研究，修士論文特別研究，地域社会学特論，地域社会学演習，家族社会学特論，家族社会学演習</p>		

問い合わせ先 月曜日～金曜日（祝日は除く） 9：00～17：00

常磐大学大学院

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1

TEL 029-232-2511（代表） <http://www.tokiwa.ac.jp/>

問い合わせ（アドミッションセンター）

TEL 029-232-2504（直通）

E-mail nyushi@tokiwa.ac.jp
